

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2024年度)

専門分野区分	経営学	科目名	プロジェクトマネジメント			科目コード	T1890B1			
配当期	後期	授業実施形態	通常			単位数	2 単位			
担当教員名	高岸 義	履修グループ	2H(BI)			授業方法	講義			
実務経験の内容	大学院商学研究科修士課程で学位取得後、会計事務所で約2年間、経理を中心に顧問先の経営支援業務に従事した。その後、大学院商学研究科博士課程で単位取得、研究生を経て、大学、専門学校で約25年、講師としてマーケティング及び経営学分野の科目を担当している。講義においては、理論的な内容だけではなく実務経験を活かして、実践的な内容も含め教授する。									
学習一般目標	プロジェクトの基礎を修得し、現状のプロジェクトマネジメントに適応し得る知識と能力を身につけることを目標とする。									
授業の概要および学習上の助言	さまざまなプロジェクト組織を日常的に結成して業務を遂行していく現代の企業において、組織を効果的に運営するためには、プロジェクトマネジャーの権限と役割が大きく関与する。よって、プロジェクト組織の基礎を理解したうえで、実際のプロジェクトマネジメントの場面を想定しながら、どのように行い、どのような役割を果たすのかを説明していく。									
教科書および参考書	「誰でもチームをゴールに導ける！ プロジェクトリーダー 実践教本」日本実業出版社、「プロジェクト・マネジメント 実践ワークブック」秀和システム(プリント配布)									
履修に必要な予備知識や技能	日頃から、新聞や経済雑誌など読む習慣を身につけ、世の中の動向に関心を持って欲しい。									
使用機器										
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	プロジェクトの基礎用語を説明することができる。								
	1/3	プロジェクトにおける実践的な内容を理解することができる。								
	2	プロジェクトの知識を活用して問題に対応することができる。								
	3/5	講義に意欲を持って取り組むことができる。								
	5	基礎的な知識を修得することから、より高度な知識への興味、関心を喚起できる。								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解	40							40
		2.思考・判断	30							30
		3.態度							10	10
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
	総合評価割合	70						30	100	
評価の要点										
評価方法	評価の実施方法と注意点									
試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。									

小テスト	
レポート	各テーマの演習問題を行う。
成果発表(口頭・実技)	
作品	
ポートフォリオ	
その他	授業への出席、取り組みなどを含め総合的に評価する。

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	科目概要説明	講義	特になし。
第2回	実践的プロジェクトマネジメントとは(1)	講義	適宜指示する。
第3回	実践的プロジェクトマネジメントとは(2)	講義	適宜指示する。
第4回	プロジェクトの背景や特徴を調べる	講義	適宜指示する。
第5回	プロジェクトを立ち上げる	講義	適宜指示する。
第6回	成功するプロジェクト運用の基礎	講義	適宜指示する。
第7回	プロジェクトを高速回転させる(1)	講義	適宜指示する。
第8回	プロジェクトを高速回転させる(2)	講義	適宜指示する。
第9回	問題に対処する	講義	適宜指示する。
第10回	問題の解決が個人の実力を高める	講義	適宜指示する。
第11回	プロジェクトの経験を見える形に残す	講義	適宜指示する。
第12回	プロジェクトを通して個人と組織が成長する(1)	講義	適宜指示する。
第13回	プロジェクトを通して個人と組織が成長する(2)	講義	適宜指示する。
第14回	課題解決型授業1	遠隔授業 実施時期:5期	適宜指示する。
第15回	課題解決型授業2	遠隔授業 実施時期:7期	適宜指示する。